

Advanced Powder Technology の Editor-in-Chief を拝命して

On Being Appointed Editor-in-Chief of Advanced Powder Technology

黒瀬 良一*
Ryoichi Kurose



粉体工学会が Elsevier B. V. 社から発行している国際英文ジャーナル, Advanced Powder Technology (APT) の Editor-in-Chief (EC, 英文誌編集委員長) を 2025 年 3 月に拝命した。国際的な評価を着実に高めてきた APT の名を汚してはならないというプレッシャーを感じるとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いである。

本紙面を借りて、まずは本職務を 2019 年 3 月から 6 年間もの長きに亘って務めてこられた前任の藤 正督先生 (名工大) のご尽力に敬意を表したい。この間、APT への論文投稿数は 1600 ~ 1900 本程度 / 年をほぼキープし (2023 年のみ COVID-19 の影響だと思われる理由で激減), インパクトファクター (IF) は 4.0 以上 (2022 年は最高の 5.2) を継続して記録している。また、APT のロイヤリティーとして本学会に入る収入は 3 倍以上になった (金額は生々しいので割愛する)。まさに、先に EC を務められた先生方の努力を礎にして [1,2], APT を世界的な雑誌へと導かれた。英文編集委員会を代表して御礼申し上げたい。

さて、2025 年 3 月からの新体制は、3 名の日本人 Executive Editor (EE) (大野智也先生 (北見工業大学), 石田尚之先生 (同志社大学), 荻 崇先生 (広島大学)), 7 名の国外 EE, 56 名の国内外 Editor (E) から構成される。ここで、よい機会なので、APT に投稿された論文のハンドリングプロセスについて概略を紹介したい。下記の通りである。

- (1) APT に投稿された全ての論文は、Elsevier B. V. 事務局および学会事務局 APT 担当 (喜田みゆき氏, 田中尚代氏) において、体裁・剽窃チェックを行う。
- (2) APT 事務局は、カテゴリ等を基にしたルールに沿って (今回新しく導入), 論文を EC と国内 EE に割り振る。
- (3) EC と EE は、割り振られた論文を確認後、即時判定するか、専門の近い E に割り振る。
- (4) E は、割り振られた論文を確認後、即時判定するか、より専門の近い査読者 (reviewer) を指名する (通常 2 ~ 3 名程度)。
- (5) 査読者は、査読を行い結果を E に報告する。
- (6) E は、複数の査読意見を基に最終判定し、著者に連絡する。
- (7) 以降、著者の修正と再投稿を繰り返す。

これからも、1 つの論文の査読審査には公正かつ厳格な手

順があり、それには多くの方々関わっていることをお分かりいただけるかと思う。近年の論文投稿数の上昇に相まって、国内からの投稿数が相対的に減ってきている。これらの査読審査には数多くの国内の方々も関わられているので、特に国内に多い EE や E の“やりがい”を喚起するためにも、是非とも国内からの積極的な投稿をお願いしたい。

前述したように、APT はこれまで着実に成長してきているが、この 1, 2 年は IF の伸び悩みにも直面している。この打開策として、今年から「査読審査の迅速化」と「特集 (Special Issue, SI) の魅力化」に取り組んでいる。「査読審査の迅速化」は、近年の論文数・引用数を基盤とする成果主義の世界的な広がりや情報化社会の影響により、避けられない喫緊の課題である。そのため、国内外の全 EE, E にこの迅速化の旨について (ことあるごとに、しつこいほど…) 周知、お願いするとともに、APT 事務局に定期的な査読状況チェックと遅延者への催促の徹底を依頼している。EE, E の皆様には何かとご多忙のところ、(既に APT のために貴重な時間を割いていただいていることは重々承知しているが) APT の更なる飛躍のためには今が大事な時期とご理解いただき、より一層のご協力を賜りたい。一方、「SI の魅力化」については、これまで APT では主に国際学会等からの推薦論文からなる SI を企画してきたが、今後は、注目テーマに絞った論文を集めた SI も積極的に企画していく予定である。まず手始めとして、現在、世界的にも注目度の高いと思われる、以下の 2 つの SI を企画し、論文の募集を近々開始する。会員の皆様からの積極的な投稿を是非ともお願いしたい。

・「AI and Data Science for Powder Technology」(Guest Editor: 丹野賢二 氏 (電力中央研究所), 酒井幹夫 先生 (東京大学) 他)

・「Advanced Powder Technology for Secondary Battery」(Guest Editor: 仲村英也 先生 (大阪公立大学), 大野智也 先生 (北見工業大学) 他)

最後に、今後も引き続き、APT の国際的な評価をさらに高めるべく、取り組んでいく所存である。本学会会員の皆様には APT 賞 (APT Distinguished Paper Award) 受賞のチャンスもあるので、是非とも多数の論文投稿をお願いしたい。加えて、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。なお、APT に関するより詳細な情報は APT の HP[3] を参照いただきたい。また、ごく最近、APT の LinkedIn [4] を立ち上げたので、コミュニケーションに利用いただきたい。

参 考

- [1] 東谷 公, 粉体工学会誌, 43, 807-809 (2006).
- [2] 森 康雄, 粉体工学会誌, 48, 571-575 (2011).
- [3] HP: <https://www.sciencedirect.com/journal/advanced-powder-technology>
- [4] LinkedIn: www.linkedin.com/in/adv-powder-technol-editorialoffice

〈著者紹介〉

1998 年 九州大学大学院工学研究科化学機械工学専攻博士後期課程修了 (博士 (工学))。1998 年 財団法人電力中央研究所 研究員を経て主任研究員 (2004 ~ 05 年 Stanford University/NASA Center for Turbulence (米国) 上席客員研究員)。2006 年 京都大学大学院工学研究科 助教授を経て准教授, 2017 年 同 教授。現在に至る。2011 年 4 月より APT Editor, 2025 年 3 月より APT Editor-in-Chief。専門: 混相流, 燃焼流, 熱流体工学

* 連絡先 kurose.ryoichi.6x@kyoto-u.ac.jp